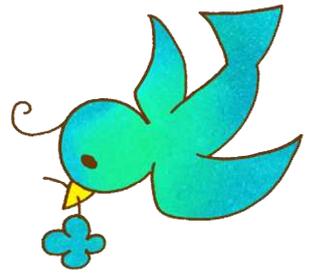


新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 220

R2. 4月号

春のブックフェア



ひらいてはっけん！～本と旅する～

2020年4月21日（火）～2020年5月17日（日）

こどもの読書週間に合わせ、冒険や旅などに関する児童書を展示します。
ドキドキわくわくの本の冒険旅行をお楽しみください。



4月のおはなし会

※4月4日（土）の
「春 おはなしいっぱい」

と

※4月14日（火）の
「でておいで 春ですよ」

は

中止となりました。

ものまちさんぽ

4月18日（土）・19日（日）

新屋地区のまち歩きイベント

「ものまちさんぽ」が開催されます。

新屋図書館にも

どうぞお立ち寄りください！

アラヤードピクニック

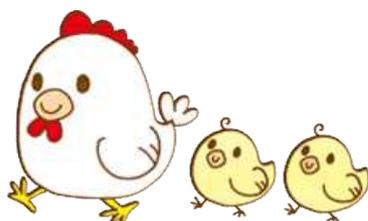
4月14日（火）～29日（水）

アラヤードピクニックの

関連資料展示をおこないます。

テーマは「水の一生」「採集文化」。

ぜひご覧ください！



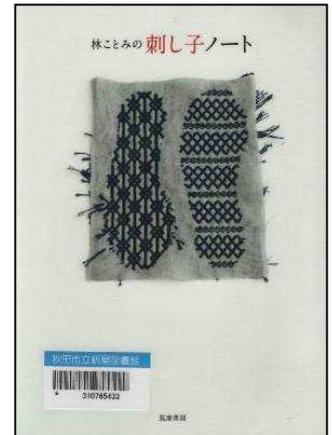
新刊案内

林ことみの刺し子ノート

林 ことみ／著

筑摩書房 請求記号 594.2 (手芸)

刺し子のパターンには、家のしきたりや祝いの気持ち、憧れなど地方の風土文化と想いがつまっています。特に東北の地方を取り上げ訪ね歩き、バックグラウンドを学ぶとともに、図案、刺し方を丁寧に紹介します。蝶ネクタイ、リストバンド、モバイルケースにインソールまで、すぐに作りたくなる作品を掲載。



原田マハの印象派物語 (とんぼの本)

原田 マハ／著

新潮社 請求記号 723.05 (画家)

日本人になじみの深い印象派。あらためて人物、代表作、画風を説明するものではなく、美しい作品を眺めながら、作家でありフリーのキュレーター(専門知識を持ち展覧会の企画・運営を行う職業)でもある原田マハさんの上質な短編集を読む…贅沢な時間です。



図解 英単語イメージ辞典

政村 秀實／著

大修館書店 請求記号 R833.3 (英和辞典)

約1400語の英単語が、その単語のコア(芯)となるイメージをあらわした図や絵とともに掲載されている辞典です。知らない単語を語義とともに覚えることにももちろん役立ちますが、知っている単語の語義をあらためて調べてみると、また新しい発見があるかもしれません。



ねこと王さま

ニック・シャラット／作・絵 市田 泉／訳

徳間書店 請求記号 92シ (外国文学)

王さまは、仲良しのねこと一緒に、町の小さな家に引っ越してきました。住んでいたお城が火事になってしまったからです。お城では召使いにお世話をしてもらっていましたが、新しい家ではねこと力を合わせいろいろなことに挑戦します。ゆかいで楽しいおはなしです。



図書館員（平山 義尚）のおすすめ本

書名	定年後 50歳からの生き方、終わり方
著者名	楠木 新／著
出版社	中央公論新社
所蔵	明德、土崎
	請求記号 367.7（生き方）



サラリーマンの大きな宿命の一つは、定年退職。この機会に、これまでの生き方を顧みたり、今後の第二の人生をどう過ごすかなどを考えたりする、人生の大きな節目である。

著書では、60歳からの人生の自由時間は平均余命を踏まえると約8万時間あり、これは40年間勤めた総労働時間よりも多いと明らかにしている。決して少なくない定年後の持ち時

間をどう充実させ、キラリと輝かせる人生を過ごすかを、著者のキャリアを踏まえるとともに、様々な定年退職者などへの取材を通じて、具体的に提示している。

「終わりよければすべてよし」と明言する著者の人生訓は一読に値するものであり、50代のサラリーマンには、定年後の豊かな人生を考えるうえで、参考となる一冊である。

図書館員（金谷 真美）のおすすめ本

書名	なくなりそうな世界のことは
著者名	吉岡 乾／著 西 淑／イラスト
出版社	創元社
所蔵	明德
	請求記号 802（言語）



世界には、多くの人との間で使える「大きな」ことばと、少しの人との間でしか使えない「小さな」ことばがあります。「小さな」ことばは、時代の変化とともに失われていき、よみがえることはまずありません。この本を読んで、どこか遠い国の「小さな」ことばに思いを馳せてみませんか。あなたの知らないことばの世界が広がっているはずです。

わたしのお気に入りのことばは「ヴェヴァラサナ」です。これはヘレロ語で「遠く離れていても気持ちはいつも通じ合っている」という意味だそうです。ナミビアやボツワナで今も話されています。遠くにいる大切な人を互いに想いあう気持ちを表すことばが日本にはあるでしょうか。世界にはあるのです。ロマンチックですね。

記事になったお酒の話題あれこれ・・・福島の若い力・・・

福島大学の学生が2月、福島県産の米を使った日本酒とバウムクーヘンを発売しました。地元農産物の魅力を広く伝えたいと、製造から販売までの工程に関わりました。瓶の外観は、女性向けかばんでおなじみの「サマンサタバサジャパンリミテッド」の社員から助言を得て、若い女性が手に取りたくなるようこだわってデザイン。東京、福島で数量限定の販売となりました。

若い世代の思いが詰まった、地元愛にあふれた商品。きっと多くの人に親しまれたことと思います。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】
日本経済新聞
令和2年2月26日

こんなときこそ何をする？・・・いっほ にほ さんぽ・・・

この図書館だよりが発行される頃には、世の中が落ち着いていればいいけれど。

ウキウキするはずの春が、新型コロナウイルス感染症騒ぎで世界中大変。冷静になろうという声も上がっているようですが、今一つ落ち着きません。そこで、ひとつゆっくり本を読んでみましょうか。それとも手仕事でブックカバーを作ってみましょうか。お気に入りの一冊が特別な一冊に昇格。家の近くを散歩してみましよう。「いっほ、にほ、…」いつもと違うものが見えてくるかもしれません。道端の雑草にも名前があり、動かない雑草が生き延びるための戦略を知るのも面白い。森羅万象図書館の本は、いろいろな世界への門を開く扉。古への先人の知恵にふれることができることでしょう。退屈な時も困った時も本を開いてみませんか。ここ新屋図書館の倉庫群はお米の蔵だったところ。食うための遺産が心豊かに生きることが求められる時代の牽引役に。図書館はみなさんのおいでをお待ちしています。

【参考資料】シャーロット・ゾロトウ『ブックカバーの本』（雄鶏社）、『いっほ、にほ・・・』（童話館）
『子どもと一緒に覚えたい道草の名前』（マイルスタッフ）

図書館員のひとりごと

美しい建物が誇らしく、みんなが「新屋図書館大好き」と言ってくれるのが嬉しかった。平成10年新屋図書館が開館して21年。おはなし会当初から参加していた子どもが親になり、幼稚園の先生になって、おはなしや絵本を次の世代に手渡す人に育った姿を見ることが出来たのは、最高に嬉しいこと。何でもすぐに成果、効果を求められる時代だが、図書館で過ごした時間が何だか楽しかった！！と思える場所であったならそれはなんてステキなこと。図書館は利用する方に育ててもらって育つ場所。ますます、素敵に成長してほしいものです。二度にわたってお世話になりました。感謝感謝（吉田）

4年間、朝夕の通勤で見てきた雄物川。
マイナス10度を記録した時の、凍てついた雄物川。
30度以上の日々が続き、干上がったような雄物川。
ものすごい豪雨の影響で、溢れそうになった雄物川。
朝日に煌めく雄物川。
夕日に染まる雄物川。
雄物川は変わることなく、様々な表情をこれからも見せてくれるだろう。
それを見ることが出来なくなるのは残念だ。
（小松）